

「炎症性腸疾患、腸炎の診断・治療目的で当院にて単純 X 線検査、CT/MRI、PET-CT などの画像検査を施行された患者さん、受診者の診療情報を用いた医学系研究（腸炎および炎症性腸疾患関連脊椎関節炎患者における画像での骨構造変化の後方視的検討）」に対するご協力のお願い

研究責任者 野崎 太希
研究機関名 慶應義塾大学医学部
(所属) 放射線科学教室

このたび当院では上記の医学系研究を、慶應義塾大学医学部倫理委員会の承認ならびに研究機関の長の許可のもと、倫理指針および法令を遵守して実施します。

今回の研究では、同意取得が困難な対象となる患者さんへ向けて、情報を公開しております。なおこの研究を実施することによる、患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。

本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨を「8 お問い合わせ」に示しました連絡先までお申し出下さいますようお願いいたします。

1 対象となる方

西暦 2000 年 4 月 1 日より 2024 年 4 月 30 日までの間に、放射線科にて単純 X 線検査、CT/MRI、PET-CT などの画像検査を受けた方が対象となります。

2 研究課題名

承認番号 20241070

研究課題名 腸炎および炎症性腸疾患関連脊椎関節炎患者における画像での骨構造変化の後方視的検討

3 研究組織

研究機関	研究責任者
慶應義塾大学医学部 放射線科	准教授 野崎太希
学教室（診断）	

4 本研究の目的、方法

炎症性腸疾患関連脊椎関節炎患者では、仙腸関節などの体軸関節および四肢の末梢関節に関節炎が生じることが知られています。単純 X 線、CT/MRI などの画像所見にそれらが見られることがありますが、その頻度や画像の特徴および臨床所見との関連性についてはわからないことが多くあります。放射線科医や内科医にもそれらの認知度は低く、注意して読影しておかないと診断も難しいとされます。

近年、炎症性腸疾患関連脊椎関節炎において、画像所見の報告がわずかにされるようになってきました。本邦においてはそれらの報告はなく、検討されてきませんでした。したがって、本邦における画像所見およびその頻度を調べ、臨床所見との関連を検討することにしました。

5 協力をお願いする内容

本研究では単純 X 線検査、CT/MRI で得られた既存のデータや内視鏡データ、血液生化学検査などの臨床データのみを使用させていただくため、新たな身体的負担はありません。研究を行う上で、診療録を閲覧させていただく必要がありますが、本研究で収集する情報は本研究に関連すると考えられる情報に限られます。この研究により得られた結果は国内外の学会や論文により発表、公開する予定です。

6 本研究の実施期間

研究実施許可日～2025 年 3 月 31 日

7 外部への試料・情報の提供

該当いたしません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

また本研究の対象となる方またはその代理人（ご本人より本研究に関する委任を受けた方など）より、試料・情報の利用の停止を求める旨のお申し出があった場合は、適切な措置を行いますので、その場合も下記へのご連絡をお願いいたします。

研究責任者：慶應義塾大学医学部放射線科学教室（診断） 野崎太希（ノザキ タイキ）

連絡先：03-5363-3837

以上